

神戸・淡路宣言

2001年11月19日～11月22日の期間、世界41カ国、約1,100人もの人々が第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2001)に参加すべく、ここ神戸・淡路に集いました。私達はエメックスのコンセプトが誕生した、この美しい沿岸に再び戻ってきました。世界各地で行われた、第1回～第4回エメックス会議で得られた多くの知識と、また将来に対する方向性と希望を持ってこの神戸に帰ってきたのです。

EMECS2001のテーマは、「21世紀の人と自然の共生のための沿岸域管理に向けて」です。沿岸域の環境を語る時、人間は沿岸環境の不可欠な一要素であると私達は考えています。私達人間が沿岸域の景観を変化させ、水を使い、環境資源を収穫してきたように、沿岸域の環境は人間の文明社会や、文化的遺産、生活様式を形成してきたのです。人間は決して侵入者ではありません。私達は世界の河口域、湾、および内海の生態系における積極的な参加者なのです。私達がそれらの自然環境を保護し、修復に取り組むことにより、同じように私達の経済は繁栄し、文化が存続することとなるのです。

海洋投棄や輸送に伴う廃棄物汚染、採掘や輸送による油汚染、海面埋立て、漁業での乱獲など、人間の水を基盤とした様々な活動がこれらの沿岸域を長期にわたり脅してきているのは周知の事実です。また、農耕地からの土粒子や栄養塩の流入と流域での森林伐採、道路や屋根の不浸透性の表面からの油や有害物質の流出、自動車や発電所から生じる直接的または間接的な大気中の化学物質の沈積などといった様々な、沿岸流域での活動による副産物が河川の流れとともに海域に流入していることも理解しています。生態学的観点から言えば、有害藻類の異常発生、貧酸素水域、海草・海藻類の消滅、商業価値のある魚介類の漁獲高の減少、生物多様性の喪失などは全て食物連鎖や生態系の機能の根本的变化を反映しています。私達の沿岸域の社会とその資源に依存している経済は、その結果を受け継いでいるのです。

私達は、先進国が、積極的に廃水および廃棄物の処理の向上に取り組み、産業活動によって排出される有害化学物質の管理強化を行い、沿岸水域への船舶からの廃水の排出や廃棄物の投棄を規制し、また閉鎖性沿岸海域の流域からの栄養塩の負荷を削減することに努めていることは歓迎すべきものだと考えています。しかし現実には、失われつつある海草・海藻類の現存量が回復するには至らず、貧酸素水域は毎夏拡大しており、沿岸域における漁獲量の多くは減少していることを懸念せずにはいられません。私達は、生息環境の修復にあたり、私達のかげがえのない自然資源の持続可能な保持のために必要な生息環境を、修復しえていないということを認識する必要があります。私達は生息環境の喪失と水質悪

化との関係について更なる科学的な知見を必要としており、そのような知見に基づき、新しい汚濁制御の方策と目標を採択すべきです。解決策が見出し易く、手っ取り早く、取り組み易いその場しのぎの対策に終わらせてはなりません。

閉鎖性沿岸海域の流域からは、点源および非点源の両方からの汚濁物質が多量に排出されています。汚濁の制御に取り組んでいる国は、最初はまさしく下水および産業廃水の排出、廃棄物の海洋投棄および船舶からの廃水の排出のような点源に焦点を絞り、取り組みを進めます。このような点源は、より効果的な汚濁管理や技術の進歩により、より制御が進歩しているので、非点源汚濁の問題に対する取り組みの重要性が増しています。文明化の副産物としてこれらの点源および非点源による汚濁の発生が止むを得ないものと、私達が受け止めている限り、閉鎖性沿岸海域において人間と自然の共生は脅かされることとなります。きれいな水、豊富な資源、自然環境の美しさといった生態系がもたらす恩恵は沿岸域の経済の活力にとって必須であることを、我々は認識せねばなりません。これらの人間の生存にとって不可欠な生態系の恩恵を保全するため、私達はたゆまず努力を続けていかななくてはなりません。

「人と自然との共生」は同時に「人と人との共生」が不可欠であり、つまり、個々人間、コミュニティー間、地方自治体間、そして各国間の、歴史や発展、地球上の地理的位置というものを超越した共生の在り方ともいえます。共生は信頼と情報の共有化、そして、基本的に教育という要素の上に成り立ちます。それは、女性と男性によって変わるべきものでもなければ、経済発展の状態によって変わるべきものでもありません。さらに、科学的知見の進展は、政策決定者、そして市民や NGO といったますます社会的に重要な役割を担うこととなる集団に、明確で効果的に伝達される必要があります。私達が適用する技術は、平和利用のためのものでなければなりません。閉鎖性沿岸域の生態系を考えれば、そこに政治的な境界線は無いと言えます。最終的に私達個々人が、仕事や日常生活を通じ、重要な環境汚染源であることを認識する必要があります。産業、NGO、市民、政策決定者および科学者は皆パートナーであり、閉鎖性沿岸海域における「人と自然との共生」の達成のために共に手を携え貢献すべきなのです。

私達、第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の参加者は、21世紀の「人と自然との共生」の達成に向け、政策ガイドラインとして、以下の基本理念を掲げます。

1. 総合的な生態系の把握と理解が重要であり、そのために、流域、水域、生物資源、経済的利益を理解し、そして人間が文化的に幸福な生活を送ること、それら全てが閉鎖性沿岸海域のシステムにおける不可欠な要素であるということを理解しなくてはならない。
2. 点源および非点源の双方からの汚濁物の負荷を削減し、制御すべきである。

- 3 . 生物資源の持続可能な管理と生物多様性の維持には、それらを支えるために必要な生息地の保全と修復が必須である。
- 4 . 真の地球的規模でのパートナーシップにおいては、情報伝達、信頼、情報の共有化が、人間間、地域間、地方自治体間、国家間、そしてそれらの間において不可欠である。
- 5 . 環境教育は、地域の文化的遺産を組み入れながら、新しい倫理を確立するために行われるべきであり、また同時に、現在および新しいカリキュラムに組み入れることによって、地域の学校での学習を改善することができる。
- 6 . 個々の人々は、過去そして現在の問題における原因の一端を担っていることを認識し、同時に将来に向けての課題解決に向けた取り組みの一翼を担う一員であることに意識を持つべきである。

エメックスの活動が生み出す「協働」という精神が、私達にとってさらに重要となっていることを再確認して、この神戸・淡路宣言を締めくくります。エメックスは人であり、ともに手を携えて協働する人の集まりです。脅威にさらされている私達の閉鎖性海域を最終的に守るのは、世界中で手を携え協働する人々であります。この観点から、この精神を将来の EMECS 会議に引き継いでいきます。

EMECS 2001 の参加者一同

2001年11月22日

(事務局仮訳)